【273】

氏　名（国籍）	买买提・帕丽达（中　　国）（まいまいてい　ぱりだ）
学位の種類	博　　士（ヒューマン・ケア科学）
学位記番号	博　甲　第　4736　号
学位授与年月日	平成 20 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	**看護学生における実習での学び尺度の作成と学びに対する教育的支援の検討**

主　査	筑波大学教授	博士（医学）	本　田　　靖
副　査	筑波大学准教授	医学博士	柳　　久　子
副　査	筑波大学准教授	博士（保健学）	三　木　明　子
副　査	筑波大学教授	博士（医学）	紙　屋　克　子

論　文　の　内　容　の　要　旨

（目的）看護学実習は，看護過程を通して学習の統合化を図る機会であり，教育の質を規定するものとして重要な位置づけにある。4 年制大学による看護教育が進行する一方で，新卒看護師の約 1 割が 1 年以内に離職することが社会問題となっており，学生が実習で何をどのように学ぶかといった課題の他に，職業的アイデンティティの形成に働きかける実習指導と指導者のあり方が問われている。しかし，多様な領域で複雑に展開される実習での学び内容を客観的に測定し，評価した研究は見当たらない。また，学生が目標とするモデルに出会うことは，実習での学びに良い影響を与えると考えられているが，学生が目指す専門職像を体現している職業モデル（以下モデルとする）とはどのような特性を備えており，実習での学びにどのように影響するのかを客観的に明らかにした研究はない。

本論文の目的は，1）看護学生の実習での学びの内容を客観的に測定する尺度を作成し，信頼性・妥当性を検証する　2）職業的アイデンティティの形成に配慮した実習直前指導と，実習でのモデルの存在が実習の学びに与える影響を明らかにし，実習における教育的支援について検討する。

（対象と方法）1）看護学実習での学び尺度の作成

実習レポートと先行研究から，学びの内容を網羅する 229 項目を KJ 法で分類・整理した後，79 項目からなる質問紙を作成し，3 年制の看護専門学校 14 校，短期大学 1 校の最終学年生 640 人に対して，実習終了後に実習での学びに関する 79 項目，看護学生用職業的アイデンティティ尺度と般性セルフ・エフィカシー尺度を含む自記式質問紙による調査を実施した。

2）実習直前指導の効果

①実習直前指導の職業的アイデンティティへの影響

3 年制の看護専門学校の最終学年生 67 名に対し，独自に作成した実習直前指導を実習前日に実施し，指導の前・後に看護学生用職業的アイデンティティ尺度，一般性セルフ・エフィカシー尺度，評価懸念尺度を含む自記式質問紙調査を実施した。

②実習直前指導の実習での学びへの影響の検討

①と同じ対象校で翌年度の最終学年生71名を実習直前指導有り群（40名），指導無し群（29名）の2群に分け，指導有り群には実習直前指導を行い，実習直前指導の前，後，実習後の計3回，看護学生用職業的アイデンティティ尺度と実習での学び尺度を含む質問紙調査を実施した。

3）モデルの効果

看護学最終学年生640名に対して，全実習終了直後にモデルとの出会いの有無，医療者モデル特性尺度，実習での学び尺度を含む自記式質問紙調査を実施した。

（結果）1）看護学実習での学び尺度の作成

79項目（回答率83.8%）の因子分析の結果，実習での学びには「職についての学び」と「自己についての学び」の2種類が確認された。「職についての学び」は，「個別性の理解」「臨床実践の醍醐味」「人権の尊重」「専門職としての自覚」「看護の可能性への気づき」の5因子，「自己についての学び」は，「自己成長の実感」「実践能力の獲得」などの4因子が抽出された。上位5項目を選択して作成した学び尺度と職業的アイデンティティ尺度，自己効力感尺度との相関係数を算出したところ有意な相関が得られ，尺度の基準関連妥当性を確認した。尺度の信頼性：各下位尺度において α = .72 ～ .86 の値を示し，内的一貫性があると判断された。

2）実習直前指導の効果

①実習直前指導の職業的アイデンティティへの影響

回収率は76.1%で，各尺度の各下位尺度の平均得点を実習直前指導の前・後でそれぞれ算出し，対応のある t 検定を行った結果，職業的アイデンティティの下位尺度の得点はすべて指導後に有意に上昇し，本研究で作成した実習直前指導は職業的アイデンティティを高めることを確認した。

②実習直前指導の実習での学びに及ぼす影響

回収率は97.2%で，実習直前指導の有無と調査時期を独立変数に，職業的アイデンティティの下位尺度得点を従属変数にした2要因混合計画の分散分析の結果，指導有り群は指導後・実習終了後も「看護職選択への自信」において，指導無し群より得点が高かった。実習直前指導の学びに及ぼす影響を明らかにするために，実習での学びの9つの下位尺度ごとに平均得点を算出し，対応のない t 検定を行った結果，指導あり群は，「職についての学び」の中の，「臨床実践の醍醐味」「人権の尊重」「専門職としての自覚」「看護の可能性への気づき」，「自己についての学び」の中の「自己表現への自信」において，指導無し群より有意に得点が高かった。また「自己についての学び」の中の「自己表現への自信」において，指導無し群より有意に得点が高かった。

3）モデルの効果

回答率は83.8%で，実習での学び尺度の各下位尺度別にモデルとの出会いの有無で対応のない t 検定の結果，モデルと出会えた学生は，9つの下位尺度全ての得点がモデルと出会えない学生より有意に高かった。重回帰分析の結果，モデル特性のうち，「学生への誠意ある態度をもつ医療者」特性と「臨床への熱意を持っている医療者」特性が，「職についての学び」と「自己についての学び」の両方を促進させていた。

（考察）1）看護学実習での学び尺度の作成

先行研究での学び内容の因子は，本研究で得られた9つの因子に全て含まれていた上に，本研究では人権の尊重が独立した因子として抽出された。学び尺度の基準関連妥当性を確認した結果，自己効力感と「自己についての学び」との間で相関が高かったことは，「職についての学び」と「自己についての学び」の2つの下位尺度が異なる内容を測定している可能性を示唆している。

2）実習直前指導の効果

本研究の実習直前指導が「職についての学び」を促進したことから，症例の看護過程で看護の成果を示すことは，職業的アイデンティティの形成に寄与することが示唆された。一方，「自己についての学び」につ

いて直前指導の効果がみられなかったのは，これらの学びが，一斉指導によって生じる学びではないということであり，実習直前指導の方法と内容についての検討の必要性が示唆された。

3）モデルの効果

モデルと出会えた学生の学びが高いという結果は，これまでの一般論を支持し，実習での学びに広く影響するモデルの持つ特性は，学生への誠意や臨床への熱意であったことから，実習指導者を選定する際の基準あるいは指導者育成の課題などの重要性などが示唆された。

4）学びに対する教育的支援の検討

2)，3）の研究成果から，教育目標ごとの実習直前指導の方法と内容についての検討の必要性，未熟な看護技術を補う指導の必要性，実習指導者の選定と育成の重要性などが示唆された。

（結論）看護学生における実習での学び尺度の作成と学びに対する教育的支援についての研究から以下のことが明らかになった。

1)「職についての学び」と「自己についての学び」の２因子で構成される看護学実習での学び尺度を作成し，信頼性と妥当性を確認した。

2）職業的アイデンティティを高めることを目的として作成した実習直前指導は，学生の看護学実習での学び，特に，職についての学びを促進させた。

3）モデルと思える人に出会えた学生の看護学実習での学びは促進され，さらにモデルから学生への誠意，臨床への熱意が伝わることが，看護学実習での学びを促進させた。

4）実習の効果を高める実習直前指導の方法と内容には，実習前に症例による看護過程の紹介，未熟な看護技術を補う指導，よいモデルとしての実習指導者との出会い，指導者からの臨床実践への熱意が伝わることの重要性などが示唆された。

審 査 の 結 果 の 要 旨

学位論文審査委員会において審査委員全員出席のもとに最終試験を行い，論文について説明をもとめ，関連事項について質疑応答を行った結果，審査委員全員によって合格と判定された。

よって，著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。